

長射程ミサイルに巨費

軍事費

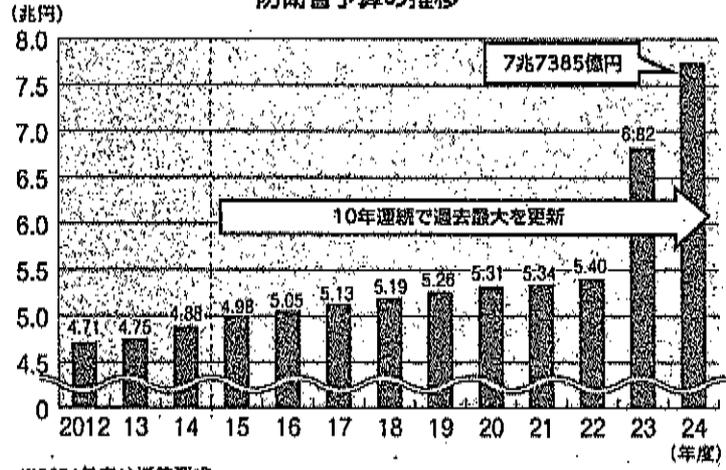
2024年度の防衛省の概算要求は7兆7385億円で、過去最大だった23年度当初予算より9166億円の増額となりました。10年連続で過去最大を更新しました。

対米公約優先

政府は昨年末、米国の要求を受けて安保3文書に23、27年度に軍事費43兆円を確保すると明記。今回の概算要求は同方針を踏まえて軍事費を突出して増やしており、物価高騰で市民生活が危機に陥るなか、対米公約を最優先にしています。

2024年度 概算要求の 焦点

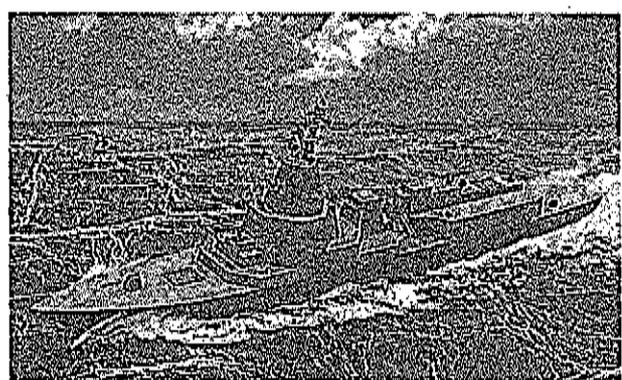
防衛省予算の推移



※2024年度は概算要求

敵基地攻撃能力につながる長射程ミサイルの関連経費が並びます。音速の5倍以上で飛ぶ「極超音速誘導弾」の開発費に718億円、量産費に74億円のみならず、地上

85億円を計上。射程1000キロ程度に延ばす「12式地对艦誘導弾能力向上型」は、開発費(174億円)や量産費(4兆円)の膨らみで、地上超音速滑空弾を迎撃する新型ミサイル「GPI(滑空段階迎撃用誘導弾)」の目米共同開発に750億円を新規計上。イースス・システム搭載艦2隻の建造費として3797億円を要求。同艦の1隻あたりの経費は約3950億円に上り、当初計画していた陸上イーススの導入経費の3倍以上に膨らみました。



イースス・システム搭載艦(イセ型)の防衛省概算要求資料から

発射用の弾頭や発射装置の取得費、護衛艦に搭載するための器材調達費も盛り込まれました。誘導性能を高め、長射程化する「精密誘導弾」の開発に320億円を要求しました。敵基地攻撃とミサイル防衛を一体化させる「統合防空ミサイル防衛(IAMD)」にも巨額の予算を充てます。極端な増大を懸念する菅首相は、陸海空自衛隊を一元的に指揮する管轄の「統合司令部」(約240人規模)の創設を明記。米インド太平洋司令部のカウンターパートになり、陸海空共同の部隊として「自衛隊海上輸送群」を創設し、南西諸島への輸送力を強化します。

ツケ払い膨張

軍事費急増に伴って、新たなツケ払いとなる「新規後年度負担」も7兆8787億円と過去最大を更新。軍事ローンを膨らむことで、将来の財政が硬直化し、暮らしに直結する予算を圧迫します。陸海空自衛隊を一元的に指揮する管轄の「統合司令部」(約240人規模)の創設を明記。米インド太平洋司令部のカウンターパートになり、陸海空共同の部隊として「自衛隊海上輸送群」を創設し、南西諸島への輸送力を強化します。

(おわり)